

平成 27 年度版

愛知の観光振興施策の実施状況

(平成 26 年度年次報告書)

本書は、愛知県観光振興基本条例第9条第6項の規定に基づき、愛知県観光振興基本計画に定められた観光振興に関する施策の平成26年度の実施状況に関する報告を行うものです。

目 次

第1 愛知の観光の現状	1
1 観光旅行者の満足度	2
2 県内宿泊者数及び東アジア4か国・地域からの宿泊者数	3
(1) 県内宿泊者数	3
(2) 東アジア4か国・地域からの宿泊者数	3
3 経済的・社会的効果	4
(1) 経済的効果(観光消費額)	4
(2) 社会的効果(観光ボランティアガイド数)	5
第2 平成26年度における主要な観光振興施策の実施状況	6
1 観光資源の発掘・商品化の支援	6
2 プロモーション活動の強化	6
3 観光客の受入体制の充実	9
4 広域観光の推進のための連携強化	9
5 MICE(イベント、コンベンション等)の戦略的な誘致	11
第3 平成27年度の主要な観光振興施策	12
(参考)愛知県観光振興基本計画推進委員会	14

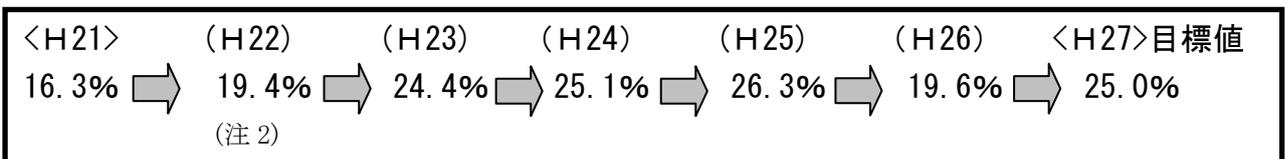
第1 愛知の観光の現状

愛知県観光振興基本計画において、計画期間中(平成22年度～27年度〔6年間〕)の目標として掲げた5つの指標の現況は、次表のとおりであった。

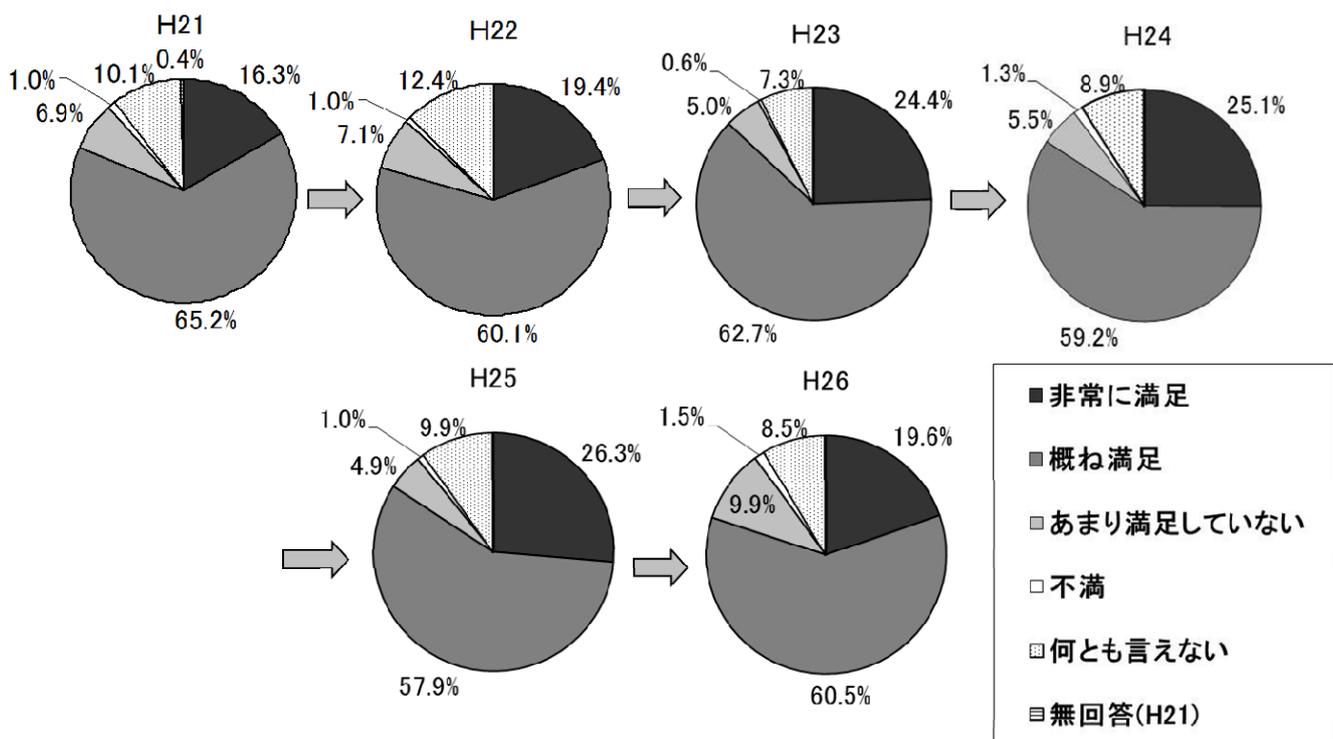
	指 標	目 標 値 (平成27年)	計画当初	平成25年度 年次報告	現 況
1 観光旅行者の満足度の向上	観光旅行者の満足度 【非常に満足】	25%	16.3% (平成21年)	26.3% (平成25年)	19.6% (平成26年)
2 観光交流人口の拡大	(1)延べ宿泊者数	1,500万人	1,048万人 (平成20年)	1,238万人 (平成25年)	1,341万人 (平成26年)
	(2)うち東アジア4か国・地域(中、台、韓、香)からの延べ宿泊者数	150万人	49万人 (平成20年)	57万人 (平成25年)	81万人 (平成26年)
3 観光と地域社会の発展	(1)(経済的効果)観光消費額	1兆円	5,300億円 (平成20年)	6,667億円 (平成25年)	7,270億円 (平成26年)
	(2)(社会的効果)観光ボランティアガイド数	3,000人	2,202人 (平成20年1月)	2,228人 (平成26年1月)	2,020人 (平成27年1月)

1 観光旅行者の満足度

- 愛知県を訪れる観光旅行者の満足度については、県内観光地で実施するアンケート調査（注1）において、「非常に満足」と回答する観光旅行者の割合を 25%とすることを目標としている。
- 平成 26 年のアンケート調査では、19.6%となり、計画当初の平成 21 年の 16.3%からは 3.3 ポイント上昇しているが、平成 25 年の 26.3%を 6.7 ポイント下回った。
- 同アンケート調査で、「不満に感じた点」としては、「道路が渋滞している」が最も多く、不満を感じた点について回答した者の 27.8%を占める。次いで、「観光資源・施設に魅力がない」が 18.4%となっている。



<図 1 満足度>



<表 1 不満に感じた点（上位 5 項目）>

不満に感じた点	割合
道路が渋滞している	27.8%
観光資源・施設に魅力がない	18.4%
観光地での駐車場が足りない、未整備	16.4%
交通アクセスの便が悪い	12.8%
観光地のトイレが不備	11.2%

資料) 愛知県「観光地実態調査」(平成 26 年)

(注1)

県内 10 箇所(名古屋城、東山動植物園、明治村、木曾三川公園 138 タワーパーク、中部国際空港見学者、刈谷ハイウェイオアシス、香嵐溪、道の駅どんぐりの里いなぶ、ラグーナテンボス、豊川稲荷)において、四半期ごとの休日に、聴き取りによるアンケート調査を実施。

(注 2)

「観光旅行者の満足度」の平成 22 年の数値については、平成 22 年 1 月-3 月期のデータがないことから、平成 22 年 4 月-12 月期のデータを使用。

2 県内宿泊者数及び東アジア4か国・地域からの宿泊者数

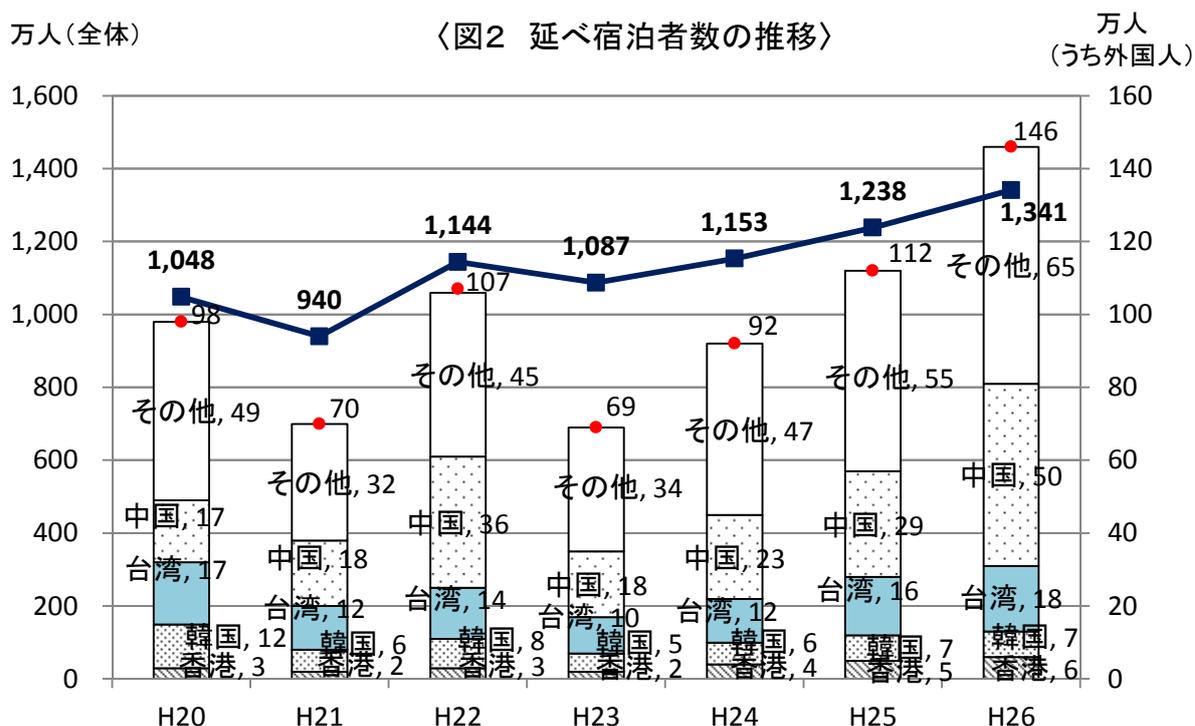
(1) 県内宿泊者数(注)

- 県内延べ宿泊者数(外国人宿泊者を含む)については、これを1,500万人とすることを目標としている。
- 平成26年には1,341万人となり、平成20年の1,048万人からは293万人増加し、平成25年の1,238万人からは103万人増加したものと推計される。

(2) 東アジア4か国・地域からの宿泊者数(注)

- 東アジア4か国・地域(中国、台湾、韓国及び香港)からの延べ宿泊者数については、これを150万人とすることを目標としている。
- 平成26年には81万人となり、平成20年の49万人から32万人増加し、平成25年の57万人からは24万人増加したものと推計される。
- このうち、中国からの宿泊者数は、50万人と最も多く、平成20年の17万人から33万人増加し、平成25年の29万人からは21万人増加している。

<H20>	(H21)	(H22)	(H23)	(H24)	(H25)	(H26)	<H27>目標値
[県内延べ宿泊者数]							
1,048万人	⇨940万人	⇨1,144万人	⇨1,087万人	⇨1,153万人	⇨1,238万人	⇨1,341万人	⇨1,500万人
[うち東アジア4か国・地域]							
49万人	⇨38万人	⇨62万人	⇨35万人	⇨45万人	⇨57万人	⇨81万人	⇨150万人



資料) 観光庁「宿泊旅行統計調査」

(注) 従業者数10人以上の施設を対象とした、延べ宿泊者数調査の結果を利用している。

3 経済的・社会的効果

(1) 経済的効果（観光消費額）

- 県内観光地で実施するアンケート調査において、県内での観光に係る消費金額(宿泊費、交通費、飲食費、土産物代等)に、県内旅行者の実人数を乗じて算出する観光消費額を1兆円とすることを目標としている。
- 平成26年には7,270億円となり、平成20年の5,300億円からは1,970億円、平成25年度の6,667億円からは603億円増加したものと推測される。(注1)
- その内訳としては、県内在住の旅行者が3,343億円、県外在住の旅行者が3,129億円、訪日外国人が798億円となっている。

<H20>	(H22)	(H23)	(H24)	(H25)	(H26)	<H27>目標値
5,300億円	5,700億円	5,050億円	4,853億円	6,667億円	7,270億円	1兆円
	(注2)					

<表2 県内旅行者の観光消費額（平成26年）>

単位:百万円

	宿 泊	日 帰 り	合 計
県内在住者	86,142	248,156	334,298
県外在住者	176,558	136,362	312,920
訪日外国人	79,778	-	79,778
合 計	342,478	384,518	726,996

(注1)算出に使用している観光庁提供の宿泊者数データは、平成20年時には、従業員数10人以上の施設を対象としていたが、平成22年4月からは、従業員数10人未満の施設を加え、全宿泊施設を対象としている。

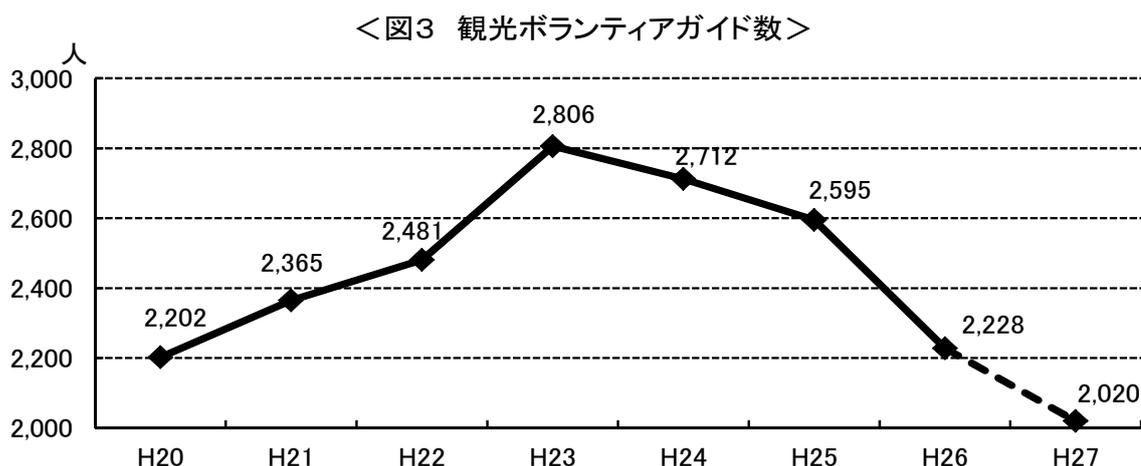
(注2)「観光消費額」の平成22年の数値については、観光庁の全国共通基準による観光入込客統計の平成22年1月-3月期のデータがないことなどから、年度のデータを使用。

(2) 社会的効果（観光ボランティアガイド数）

- 観光ボランティアガイド数は、これを 3,000 人とすることを目標としている。
- 平成 27 年 1 月末時点の観光ボランティアガイド数は 2,020 人となり、平成 20 年 1 月末時点の 2,202 人からは 182 人減少し、平成 26 年 1 月末の 2,228 人からは 208 人減少した。

※なお、(公社)日本観光振興協会の全国の観光ボランティアガイド数調査は、今回から2年に一度の調査となり、平成 26 年度(平成 27 年 1 月)は実施していないため、平成 27 年 1 月の数値は(一社)愛知県観光協会のとりにまとめている「あいち観光ボランティアガイドの会」の登録団体会員数に置き換えた。

〈H20〉	(H21)	(H22)	(H23)	(H24)	(H25)	(H26)	(H27)	〈H28〉 目標値
2,202 人	2,365 人	2,481 人	2,806 人	2,712 人	2,595 人	2,228 人	2,020 人	3,000 人



資料)平成 20 年から平成 26 年まで

(公社)日本観光振興協会資料(各年 1 月末現在)

平成 27 年

(一社)愛知県観光協会「あいち観光ボランティアガイドの会」
登録団体会員数

第2 平成26年度における主要な観光振興施策の実施状況

施策	内容	担当課室 (※)
<p>1 観光資源の発掘・商品化の支援</p>	<p>○観光事業者、ボランティア等を対象とする「あいち観光まちづくりゼミ」を開催し、地域資源を活かした旅行商品の開発を促進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ生:44名 ・観光コースツアー2回 (知多市・大府市始め2コース(11月・12月))、 企画発表会1回等 <p>○県内各地の観光関係団体等から、地域の特色ある観光資源を活用した、ツアー造成やイベント関連の企画を公募し、その中から特に事業効果の高い企画の商品化等を支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施団体:南知多町観光協会、大府商工会議所、 蒲郡市観光協会 <p>○歴史観光のシンボルである名古屋城の歴史的・文化的価値と魅力を高めるため、名古屋市が行う本丸御殿の復元工事を支援した(経費の一部を助成)。</p>	<p>観光コンベンション課</p>
<p>2 プロモーション活動の強化</p>	<p>【武将観光】</p> <p>○県内各地の武将や甲冑をテーマに活動する団体が集まる武将観光イベント「あいち合戦ワールド 2014 in 大高緑地」を開催し、本県の武将観光を全国に情報発信した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日:11月30日 ・会場:大高緑地内 若草山(名古屋市緑区) ・来場者数:約3万人 <p>○「あいち戦国姫隊」を継続し、名古屋城、犬山城、岡崎城、岐阜城での拠点活動、県内外のイベントで、武将観光の魅力をPRした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光施設PR(定例公演):146件 ・観光イベント等PR出演:161件 ・各種メディア掲載実績:139件 <p>○各地域で開催される武将関連イベントとの協力や、各地域の武将関連資源の掘り起こしを図るため、「武将観光推進会議」を開催し、関係者の情報交換を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日:7月22日、3月26日 ・参加者:(第1回)26市町村、44名 (第2回)18市町村、34名 	<p>観光コンベンション課</p>

※担当課室は実施時(平成26年度)のものを記載した。平成27年4月の組織再編に伴い、観光コンベンション課が観光振興課及び国際観光コンベンション課になるなど、平成27年度時点の担当課室が異なる場合がある。

施策	内容	担当課室
	<p>【産業観光】</p> <p>○県及び(一社)愛知県観光協会のホームページ「あいちの産業観光」において、産業観光施設やモデルコースを紹介した。</p> <p>○本県、岐阜及び三重の3県が連携し、「産業観光スタンプラリー」を実施し、産業観光施設への誘客を推進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施期間: 7月19日～10月31日 ・参加施設数: 148施設(うち愛知県は48施設) ・総入場者数: 8,142名(有効応募者数 2,391名) <p>【街道観光】</p> <p>○東海道沿線の6市(名古屋、豊明、知立、岡崎、豊川及び豊橋)との連携の下、旧東海道の観光資源を活用した町歩きキャンペーン、「東海道キャンペーン in あいち『トコトコ東海道』」を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催期間: 9月～11月 ・参加者数: 延べ5,011名 <p>【知多半島観光圏】</p> <p>○観光圏整備法に基づき国の認定を受けた「知多半島観光圏協議会」の取組を支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内外から観光客を知多半島に誘致するため、11月に開催された「ゆるキャラ[®]グランプリ 2014in あいちセントレア」へのイベント出展を支援した。 <p>【情報発信】</p> <p>○(一社)愛知県観光協会のホームページや発刊誌において、祭りなど、四季折々のイベントを紹介し、本県の多彩なイベントをPRした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発刊誌「旬感観光あいち」年4回、各5万部発行 <p>○市町村等が行う観光展・イベントの開催、情報発信等に対して必要な経費の一部を助成し、県内観光地の魅力の発信を支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成件数: 1市8団体 9件(観光展3件、イベント6件) 	観光コンベンション課

施策	内容	担当課室
	<p>○首都圏において、名古屋市との連携の下、一般消費者を対象とした知事及び名古屋市長によるトッププロモーション活動を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日:9月4日 ・会場:東京タワー ・延べ来場者数:2,420名 <p>○愛知県と名古屋市が共同で「なごやめしPR懇談会」を立ち上げ、なごやめしブランドを推進し、戦略的にPRしていくための手法等について意見交換を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日:6月21日、9月21日、11月25日 ・ロゴマークの作成などを提言 <p>○県及び(一社)愛知県観光協会のホームページにおいて、「愛知グルメ図鑑」を掲載し、「なごやめし」や郷土食等のグルメ情報を発信し、本県の食をPRした。</p> <p>○ウェブ上に観光と食の魅力を発信するアンテナショップを開設するとともに、SNSも同時に活用し、本県で行われる週末のイベントや観光地、新商品等の情報を発信したほか、東京都内において観光物産展「愛知県 観光と食フェア」を開催した。</p> <p style="padding-left: 2em;">〈SNSによる情報発信〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報配信期間:4月14日～12月25日 ・配信回数:197回 <p style="padding-left: 2em;">〈観光物産展〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日:11月23日～24日 ・会場:新宿駅西口イベントコーナー ・販売品目:102事業者から209品目 <p>○世界コスプレサミットへの参画を契機に、コスプレに関する県内市町村等の動向等を踏まえつつ、コスプレを活用した観光振興を図るため、市町村等及び先進地域の取組等調査、活用事例集及びコスプレイヤー向けパンフレットの作成、世界コスプレサミットステージイベントへの参加を行った。</p> <p>○2015年ミラノ万博日本館イベント広場催事に名古屋市と共同で参加し、「なごやめし」を始めとするユニークな食文化など当地域の多彩な魅力をPRするのにあたり、催事計画の策定など、準備を行った。</p>	観光コンベンション課

施策	内容	担当課室
	<p>【アジアからの誘客の推進】</p> <p>○タイ(バンコク市)において、トッププロモーション活動を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地旅行会社(30社 33名参加)を対象とした観光説明会及び県内観光事業者(21団体 26名)との商談会を開催。 ・観光説明会・商談会のフォローアップとして、タイの旅行会社(4社)を個別に訪問し、観光資源のPRとともに旅行商品の造成を働きかけた。 ・ツアー造成結果:2コース造成、85名参加 <p>○台湾の訪日旅行取扱旅行会社等を招請し、本県を含んだ旅行商品造成を働きかけた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・招請人数:6名 ・ツアー造成結果:4コース造成、1,512名参加 	観光コンベンション課
<p>3 観光客の受入体制の充実</p>	<p>○「おもてなし愛知県民会議」を開催し、県全体で、おもてなしの機運の醸成を図った。</p> <p>(開催日:2月9日、参加団体数:行政、観光関係団体、観光事業者、商工団体、地域住民団体 67団体・76名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月17日に「外国人観光客の受入体制整備」をテーマにワーキンググループを開催し、おもてなしの推進のための情報交換を実施した。 <p>○観光ボランティアガイドを対象とする「産業観光あなびと育成研修」を実施し、地域における産業観光の受入体制の充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会開催回数:2回 ・参加者数:延べ 103名 <p>○(一社)愛知県観光協会が県内学校と調整を行い、海外から修学旅行者の受入を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・韓国を始めとする 5か国・地域、20校 557名 <p>○市町村が行う観光案内板、トイレ等の施設整備に対し、必要な経費の一部を助成し、県内観光地の利便性、快適性の向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成件数:7市町村 10施設 	観光コンベンション課
<p>4 広域観光の推進のための連携強化</p>	<p>○「中部広域観光推進協議会」(愛知、岐阜、三重、静岡、富山、石川、福井、長野及び滋賀の9県、名古屋、静岡及び浜松の3市のほか、観光関係団体等で構成)において、国内及び海外での観光プロモーション活動を実施した。</p>	観光コンベンション課

施策	内容	担当課室
	<p><国内プロモーション></p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京・大阪での「観光フォーラム」の開催(参加者数:東京163名、大阪136名) ・「旅まつり名古屋2015」出展(3月14日～15日、24万名来場) <p><海外プロモーション></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国 : 「昇龍道プロジェクト」の一環として、天津市旅游協会会長と「友好交流及び観光における協力覚書」を締結、中国旅游産業博出展(3ブース) ・上海世界観光博覧会(WTF2014)及び北京国際旅游博覧会(BITE2014)への出展 ・深圳等の旅行会社の招請(2名) ・韓国 : ブロガーの招請(2コース各1名) <ul style="list-style-type: none"> ・クレジットカードの利用明細書による昇龍道ツアーの紹介、販売等を実施(台湾・香港でも同様の取組を実施) ・台湾 : 台北市において、台北国際旅行博(ITF2014)及び「日本観光・物産博2014」への出展 ・タイ : 旅行会社等の招請(2コース合計14名)、タイ国際フェアへの出展(TITF15・1ブース、TITF16・2ブース) <ul style="list-style-type: none"> ・バンコク伊勢丹中部物産観光展の開催(来場者4,300名) ・インドネシア: <ul style="list-style-type: none"> ・インドネシア旅行博(Astindo Fair2015)への出展 ・マレーシア: <ul style="list-style-type: none"> ・「昇龍道プロジェクト」の一環として、クアラルンプール市へのハイレベルミッションを実施(70名を派遣)、観光セミナー・商談会及び交流会(参加140名)を開催 <p>○「東海地区外国人観光客誘致促進協議会」(愛知、静岡、岐阜及び三重の4県、名古屋、静岡及び浜松の3市のほか、観光関係団体等で構成)において、海外での観光プロモーション及び招請事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国 : 徳川家康没後400年(平成27年)に向けて、家康公縁の地への旅をテーマに招請(1コース、旅行会社4社、メディア3社)、現地旅行博へ出展 ・マレーシア: 現地メディアの招請(2コース、メディア4名) ・タイ : FITを対象としたマップ及びそれに連動したアプリケーションの作成、現地旅行博でのプロモーション 	

施策	内容	担当課室
<p>5 MICE (イベント、コンベンション等) (※)の戦略的な誘致</p> <p>※「MICE」とは、企業などが行う会議(Meeting)、企業が行う報奨・研修旅行(Incentive Travel)、国際会議(Convention)、イベント、展示会・見本市(Event/Exhibition)の総称</p>	<p>○国の実施する「MICEマーケティング戦略高度化事業」に名古屋市とともに参加し、MICE開催地としての魅力の向上・受入体制の強化をめざし、専門家のコンサルティングを受けるとともに、県内のMICE関係者で構成される協議会の設立を準備した。</p> <p>○「ゆるキャラ®グランプリ 2014in あいちセントレア」の開催支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日:11月1日～3日 ・来場者数:70,621名 <p>○平成26年11月に名古屋国際会議場で開催された「ESDに関するユネスコ世界会議」の成功に向け、「ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会」が実施する会議支援等の事業に対し、負担金を拠出するとともに、県内における持続可能な地域づくりを推進するための事業を実施した。</p> <p>○「技能五輪・アビリンピックあいち大会 2014」を開催した。</p> <p>〈技能五輪〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月28日～12月1日、県内8市13会場で開催 ・来場者数:22万名(関係者、併催事業参加者を含む) <p>〈アビリンピック〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月21日～23日、名古屋市国際展示場で開催 ・来場者数:69,000名(関係者、併催事業参加者を含む) <p>○県内で開催される大規模スポーツイベント「マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知」、「アイアンマン 70.3 セントレア知多・常滑ジャパン」、「新城ラリー」及び「木曽三川ウルトラマラソン 2014」の開催支援を行うとともに、フリーマガジンやWEBサイト、SNSを通じて県内スポーツイベントに関する情報発信を行った。</p> <p>○愛知県・豊田市で「ラグビーワールドカップ 2019 日本大会」の開催都市として招致活動を行い、豊田スタジアムが開催会場として決定(平成27年3月2日)。</p> <p>○「FIFA フットサルワールドカップ 2020」の本県への招致活動を行い、日本サッカー協会が愛知県を開催地とした日本への招致を決定(平成26年10月9日)。</p> <p>○2005年日本国際博覧会(愛・地球博)10周年となる平成27年度に開催する「全国都市緑化あいちフェア」の成功に向け、観客誘致・広報宣伝活動を行い、また、行催事の調整、会場運営管理の調整を進めると共に、会場整備の実施設計を進め、一部工事着手を行った。</p> <p>○「第31回国民文化祭・あいち 2016」の開催に向け、県実行委員会を設立した。</p> <p>○3年に1度の国際芸術祭「あいちトリエンナーレ 2016」の開催に向け、会期、主要会場、展開概要、主要出品作家などを内容とする企画概要を取りまとめるとともに、PR活動を展開した。</p>	<p>観光コンベンション課</p> <p>ESD会議支援室</p> <p>技能五輪・アビリンピック推進室</p> <p>地域政策課</p> <p>全国都市緑化フェア推進室</p> <p>文化芸術課</p> <p>国際芸術祭推進室</p>

第3 平成27年度の主要な観光振興施策

1 観光資源の発掘・商品化の支援

愛知県が地域の観光資源を発掘・アレンジ・旅行商品化・流通に至る一連の仕組みをモデル的に構築することで、効率的な旅行商品化を図り、継続的な支援の仕組みを実現する。

2 プロモーション活動の強化

○首都圏プロモーションの強化

名古屋市と連携し、首都圏において、知事及び名古屋市長による観光トッププロモーションイベントを開催し、大きな観光需要が見込まれる地域からの観光客の拡大を図る。また、首都圏向けに愛知の魅力を発信するウェブサイトを作成するほか、首都圏において愛知を応援していただける店舗、企業のネットワーク作りを行う。

○情報発信体制の強化

外国人旅行者の誘客をより効果的に行うため、観光PRのキーワード及びロゴマークを作成し、各種広報媒体を通じて情報発信を行う。

また、愛知県の観光情報を発信する(一社)愛知県観光協会のWEBページの多言語対応を進めるとともに、SNSを通じてリアルタイムにイベント情報等の提供を行うことで、海外向け情報発信の強化を図る。さらに、日本外国特派員協会でのトッププロモーションを通じ、海外メディアを通じた情報発信を行う。

○武将観光の推進

「関ヶ原の合戦」の再現劇をはじめとする一大武将観光イベント「東海合戦ワールド2015」を開催し、本県の武将観光を全国に向け情報発信するほか、新たなコンテンツとして、「忍者」を活用した忍者観光を展開する。

○なごやめしブランドの推進

「なごやめし普及促進協議会」を設立し、イベント出展やガイドブック等の作成、WEBサイトやSNS・動画などによる情報発信等、行政及び関連団体が連携してなごやめしの魅力をPRし、普及促進を図る。

○観光消費喚起事業の展開

国の「地域活性化・地域住民生活等緊急支援のための交付金(地域消費喚起・生活支援型)」を活用し、プレミアム付宿泊券・観光券の発行のほか、他府県・外国発愛知県行きツアーへの間接助成等、観光消費を喚起するための事業を展開する。

○ミラノ万博におけるPR活動

ミラノ万博日本館にて名古屋市と共同で「あいち・なごやフェア in ミラノ」を開催し、「なごやめし」等をはじめとするユニークな食文化、多彩な伝統・現代文化及び世界に誇る産業集積などをPRする。

○アジアからの誘客の推進

インドネシア(ジャカルタ市)を対象として、更なる観光客の増加を図るため、知事が渡航し、政府関係機関、大手旅行会社等への訪問、観光説明会・商談会などのプロモーション活動を実施する。また、昨年知事によるトッププロモーションを実施したタイを対象に、現地メディアの招請を通じて情報発信を行う。

さらに、マレーシアを対象に、現地旅行会社の招請を通じて、愛知をコースに含んだ商品造成を働きかける。加えて、中国(上海市)及び香港において観光説明会を開催するとともに、現地旅行会社等への訪問を通じたプロモーションを実施する。

○山車文化の情報発信

県内山車まつりの保存団体や市町村間のネットワークづくりを行うとともに、山車文化を県内外に広く発信し、山車文化の気運を高める事業を実施する。

3 観光客の受入体制の充実

○「おもてなし愛知県民会議」の活動の推進

県全体でおもてなしの機運を醸成するため、おもてなし宣言の公募、ポスター、ステッカー等による啓発を行うとともに、バリアフリーの充実や案内表示の多言語化、銀聯カードの普及など、内外からの観光客の利便性向上を図る。

○外国人観光客の受入環境の整備

市町村の観光協会等による多言語表示観光案内板の制作・設置のほか、民間の宿泊施設及び観光施設による無料公衆無線 LAN 環境の整備に対して補助を行う。また、ムスリム旅行者の受入環境整備を促進するため、観光事業者等を対象としたセミナーを開催する。

4 広域観光の推進のための連携強化

「中部広域観光推進協議会」や「東海地区外国人観光客誘致促進協議会」の活動を通じ、内外の観光展への出展、周遊コースの造成支援、現地旅行会社の招請、セミナーの開催等により、観光客の拡大を図る。

また、「昇龍道プロジェクト推進協議会」が実施する観光プロモーション事業に参加し、当地の知名度アップ及び当該地域からの観光客の拡大を図る。

5 MICE (イベント、コンベンション等) の戦略的な誘致・支援

○MICE誘致の推進

「愛知・名古屋MICE推進協議会」を設立し、東京で開催されるMICE見本市への出展や大規模MICE案件の誘致に向けた情報収集・調査を実施する。また、海外のMICE見本市への出展など、MICE誘致に向けた情報発信を強化する。

○大型イベントの開催準備・支援・招致

「全国都市緑化あいちフェア」を開催するほか、2016年開催予定の「あいちトリエンナーレ 2016」及び「第31回国民文化祭・あいち 2016」の開催準備に取り組む。

また、4月1日に設立した地域の関係者のネットワーク組織「あいちスポーツコミッション」において、ラグビーワールドカップ 2019 の開催支援、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の競技招致及び合宿誘致、FIFA フットサルワールドカップ 2020 の招致活動に取り組むとともに、「マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知」をはじめとする各種スポーツ大会の支援を実施していく。

(参考)愛知県観光振興基本計画推進委員会

「愛知県観光振興基本計画」の議会への報告及び公表に当たり、下表の委員で構成する「愛知県観光振興基本計画推進委員会」を開催し、基本計画に基づく施策の実施状況や今後の施策展開に対するご意見をいただいた。

(五十音順・敬称略)

氏名	所属・職名
河村 保	一般社団法人愛知県観光協会専務理事
楠 伸子	公益財団法人名古屋観光コンベンションビューロー専務理事
鈴木 誠二	名古屋市市民経済局文化観光部長
西村 哲治	公益社団法人日本観光振興協会中部支部事務局長
(委員長) 森川 敏育	桜花学園大学観光総合研究所特別研究員
山本 勝子	日本福祉大学知多半島総合研究所顧問

平成27年度版愛知の観光振興施策の実施状況

(平成26年度年次報告書)

平成27年10月発行

愛知県振興部観光局観光振興課

〒460-8501名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電話 052-954-6353(ダイヤルイン)

ホームページ:<http://www.pref.aichi.jp/kanko/>